

# 総合型選抜について

- ・ 生体制御学科の総合型選抜は、大学入学共通テストを課さず、皆さんの意欲・適正・能力などを総合的に評価する試験です。
- ・ 高等学校において『生物』を履修し、多様な生命現象に興味を持つ現役生を対象とした自己推薦型の選抜です。
- ・ 合格した際に、本学科への入学を確約できる方が対象です。

## 選抜の流れ

### 【書類審査】

応募者から提出された志望理由書や活動報告書などの書類を審査します。応募者が一定数を超えた場合、書類審査により1次選抜を行う場合があります。

### 【講義型試験】

本学で実施される講義を受講します。受講日に小テストを実施します。また、講義に関するレポートを課します。講義型試験は2回実施します。

### 【面接試験】

面接試験では、修学に関する意欲・適正・能力などを総合的に評価します。加えて、生物学および英語に関する口頭試問を実施します。

### 【合格発表後】

合格者には、大学で必要とされる素養を身に付け、円滑な大学生活が送れるようになるため、入学までの期間、課題に取り組んで頂きます。

## これまでの選抜結果

生体制御学科の総合型選抜は、令和3年度に導入され、これまでに20名が合格しました。

	募集人員	志願者	合格者	実質倍率	合格者出身地
令和3年度	4	10	5	2	埼玉・東京・沖縄
令和4年度	4	14	6	2.3	福島・茨城・栃木 埼玉・愛媛
令和5年度	6	27	9	3	栃木・埼玉・千葉 東京・静岡・石川

入試に関する詳細は、埼玉大学の入試関連Webサイトを参照ください。



## 合格者の声

私は、第一志望だった生体制御学科の講義を実際に受けられるという点と、受験の機会を増やせるという点に惹かれ、総合型選抜を受験しました。講義型試験とレポート試験は難しく感じましたが、高校生物より深い知識を得ることができ、生物が好きな私にとっては面白く、楽しかったです。口頭試問では知識問題だけでなく、その場で考えて答える問題も出題される点が新鮮でした。今後は、主に内分泌学や調節生理学を深く学びながら興味を幅を広げ、将来の仕事に活かせる知識を身につけたいです。 Mさん（千葉県）

私は、実際に大学の講義を受けられる講義型試験に魅力を感じ、総合型選抜を受験することにしました。講義型試験は高校では習わないような発展的な内容も扱っていた為、新たな発見があり楽しいと感じると思います。面接や口頭試問は知識を身に付けることに加え質問に対して柔軟に対応できる力が必要だと感じました。今後は自分が興味のある神経生物学の分野に限らず、発生生物学や遺伝学などの分野も積極的に勉強していきたいと思っています。 Sさん（茨城県）

講義型試験は高校で学ぶよりさらに深い内容が取り扱われ、とても面白いです。入学前に、大学の講義を受けることができ、生体制御学科に入学したいという気持ちがさらに高まりました。生物と英語の口頭試問は少し不安がありましたが、基礎的な知識を問われる問題が多かったです。理解をしても人に説明するのは案外難しいため、面接練習を重ねることが大切だと思いました。今後は、将来の夢に向けて生物学をより深く学ぶとともに、サークル活動なども積極的に参加していきたいと考えています。 Kさん（栃木県）